

JtCA

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

ジャパンマニュアルアワード2023結果報告



第18号
2024年



一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会

Frontier

2024年 第18号

CONTENTS

特集

ジャパンマニュアルアワード2023結果報告 … P.02

はじめに … P.02

本年度のジャパンマニュアルアワード概要 … P.05

応募状況 … P.06

一次審査 … P.07

二次審査 … P.08

三次審査 … P.09

表彰式およびマニュアルオブザイヤー

選考会(最終審査) … P.10

審査結果 … P.12

入賞マニュアル解説 … P.14

選考委員コメント … P.30

マニュアルオブザイヤー 2023受賞会社訪問

TOTO株式会社 … P.37

ジャパンマニュアルアワード2023 結果報告

2023年8月25日にTC協会CDシンポジウムにてジャパンマニュアルアワードの受賞マニュアルが発表され、10月5日には各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤーの選考・表彰が行なわれました。今号の特集では、本年度のジャパンマニュアルアワードの概要をまとめ、経過を振り返るとともに、入賞した作品に対する二次審査委員の解説と選考委員のコメント、マニュアル オブ ザ イヤーを受賞された皆様からのコメントを紹介します。

はじめに

ジャパンマニュアルアワードは、2023年現在、消費者庁および国民生活センターの後援を得ている、日本で唯一の使用情報のコンテストです。使用情報の供給者であれば誰でも応募でき、一次審査、二次審査、三次審査および最終審査を経て優秀な作品には、「マニュアル オブ ザ イヤー」、「優秀賞」、「特別賞」などが贈られます。また、全応募作品に対して、IEC/IEEE82079-1 Edition 2.0を基に作成した独自の評価表に基づく採点結果と、一次審査委員によるコメントが送付されます。これが理由で使用情報の改善目的でアワードを利用する応募者も見受けられます。一次審査は一次審査委員により、上記評価表を使用して応募作品単位で行われます。二次審査はジャパンマニュアルアワード実行委員会において部門ごとに応募作品すべてを相対的に見て行われます。三次審査および最終審査は受賞候補作に対して学識経験者や消費者代表からなる選考委員によって行われます。また、一般部門においては「学生審査」を実施し、3つの大学の学生の方々から評価していただきました。

ジャパンマニュアルアワード実行委員(一次/二次審査委員)になるためには、以下の条件でご登録いただく必要があります。

- A. 3年以上の実務経験者(使用情報の企画・設計、デザイン、ライティングのいずれかを経験)で、使用情報の評価に関心のある人
- B. 産業機器の製品/サービスのマニュアル制作実務経験者

Aの方はジャパンマニュアルアワード実行委員会へ、A+Bの方はジャパンマニュアルアワード産業機器分科会へどうぞ登録ください。実行委員に登録されれば10時間の審査委員講習を受けることになり、これを修了した人が一次審査委員の資格を有することになります。

ジャパンマニュアルアワード実行委員会では毎年、結果報告書(本書)を発行しています。日ごろマニュアル制作に携わっている方々がこの報告書から何かを感じ取り、今後のマニュアル品質や制作技術の向上に役立てていただけるよう取り組んでいます。

■ ジャパンマニュアルアワード2023によせて

テクニカルコミュニケーター協会会長 綿井 雅康

本年のマニュアルアワードも、昨年に引き続き、すべて「リアル開催」で実施されました。本アワードは、年始めの募集案内から、10月のマニュアルオブザイヤー決定まで、長い時間をかけて実施されています。ご応募いただいた企業の方々、審査を担当された方々、実行委員会の方々のご協力とご尽力によって、本アワードが成立しています。毎年のことながら、関係する全ての皆さま方に、心から感謝を申し上げます。

本アワードの最終目標は、応募マニュアルからマニュアルオブザイヤーを選出することです。マニュアルオブザイヤーに選出されたマニュアルは、単に優れているというだけでなく、これからのマニュアルが目指すべき新たな姿や方向性を示しており、他のマニュアルも取り入れるべき工夫が随所に散りばめられています。京都で開催されるTCシンポジウムでは、これまでの受賞作品が展示されており、詳細にご覧いただき、活用いただければ幸いです。

また、本アワードを実施する意義は、マニュアルオブザイヤーを選出するまでの審査プロセスにあると認識しています。応募にあたって担当者が書類を準備されること、一次・二次審査を担当されて数多くのマニュアルをチェックされること、さらには、マニュアルオブザイヤー候補作品のプレゼンテーションをご覧になること、マニュアルアワードに関わる多様な活動のいずれもが、関与された方々の資質を向上させるとともに、マニュアル制作技術の総合的な向上に貢献していると考えます。さらには、マニュアルに留まることなく、これからのTC技術がどのように発展していくのか、TCの世界がどのように拡張していくべきなのかについても、新たな知見や視点を獲得する機会になっていると考えます。来年

度のマニュアルアワードにも、より多くのマニュアルにご応募いただき、また、より多くの会員の皆様の実行委員として参画いただきたいとお願いするばかりです。今後とも皆様のご理解とご協力を是非ともお願い申し上げます。

■ 2023年のジャパンマニュアルアワード活動を振り返って

実行委員長 中原 司郎

今年度はコロナ禍の影響が徐々に収まり、世の中の動きがアフターコロナに向かっていく中での実行委員会活動運営となりました。

■今年度の運営活動におけるトピックスは以下の内容となります。

- ・実行委員会、審査員講習会、2次審査会はリアル開催を前提で実施。
- ・マニュアルオブザイヤー選考会、表彰式をTCシンポジウム会場の京都リサーチパークでリアル開催。
- ・マニュアルオブザイヤー選考委員 6名から8名へ（内3名は女性）
- ・マニュアルオブザイヤー選考会の場で、「イノベティブ特別賞」が選出された。
- ・今年度受賞作品の説明ガイドツアーのZoomウェビナー配信を実施。
- ・TCシンポジウム会場において、JMA実行委員会としてのイベント実施。

「あなたのマニュアルオブザイヤーはどれ？
過去のノミネート作品がここに！」

2012年から2022年までのマニュアルオブザイヤー候補作品31点を展示して、シール貼り付けによる投票イベントを行いました。

■運営スケジュールは以下の通りです。

- ・1月：今年度の実行委員会スタート
- ・2月～4月：3回に分けて審査員講習会を実施
- ・5月～6月：募集締め切り 1次審査(担当審査員による個別審査)
- ・6月：2次審査(相対審査) 2日間 3大学での学生審査も併行して実施
- ・7月：3次審査(有識者審査) 受賞作品確定
マニュアルオブザイヤー候補作品選定
- ・8月：受賞作品発表 (WEBでの告知)
CDシンポジウムの中で、ミニパネル「トリセツを外部評価しよう！」実施
- ・10月：マニュアルオブザイヤー選考会・受賞作品表彰式を京都府サーチパークで開催
マニュアルオブザイヤー作品発表
- ・11月：年間活動総括

■JMA実行委員会活動では、以下の4点をメリットとしております。

- ・審査方法を覚えることで、良いマニュアルを作るためのポイントを学べます。
- ・応募作品に触れることで、制作トレンドをつかめます。
- ・審査員講習会を通じて、使用情報に関する国際規格の基本を学べます。
- ・審査時に応募用紙を読み込むことで、マニュアル企画の重要性が学べます。

これら4点をメリットと感じていただける方は、是非ともジャパンマニュアルアワード2024実行委員会に実行委員登録をお願いします。皆様のご登録をお待ちしております。

昨年度に引き続き、JMA実行委員会としてTCシンポジウム会場でのイベントを実施しました。今年度の受賞作品だけでなく、過去の受賞作品をも

う一度見直してみることで新たな気づきやマニュアル改善へのヒントが見えてくるきっかけになるイベントが開催出来たと思います。今後もTCシンポジウム活動と連携しながら、新たな情報発信を行っていこうと思います。

今年度より実施した受賞作品ガイドツアーのZoomウェビナー配信はトライアル的な新たな試みでした。実際に行ったからこそわかる課題を明確にすることが出来ました。事前告知や活用方法を含めた改善点を踏まえ、来年度以降も継続していきたいと思っています。

表彰式とマニュアルオブザイヤー選考会についてのアンケート結果から、マニュアルオブザイヤーにノミネートされた4社のプレゼンで多くの気づきが得られたという声が多く寄せられた反面、運営面への改善要望についてもたくさんのご意見をいただきました。

今後より一層実行委員会活動の充実と品質の高い審査活動を行っていくため、今年度の経験を活かし来年度に結びつけてまいります。

最後に、今年度の実行委員会活動におきまして多大なるご協力とご指導をいただきました。実行委員会メンバーの皆様へ誌上をお借りしまして厚く御礼の意を表明したいと思います。本当にありがとうございました。

本年度のジャパンマニュアルアワード概要

■ 各部門の今年の傾向

●一般部門

審査対象は使用情報トータルの方がより正しい評価になる。本年は、(産業部門も含め)全29点のうち15点が対象製品の全マニュアルを審査対象とする応募だった。これは全体の約半数で、比率としては昨年の約40%からやや上昇した。また実機提供(出張審査含む)も8点で全体の25%を超えた。製品実機の提供を含めこれらの比率が増えてきたことを歓迎したい。他に、動画を参照させる作品が9点(一般8点/産業1点)あり、年々増加傾向にあると言える。

受賞のポイントとしては、以下2点が挙げられる。

- ・複数マニュアルで構成される作品で、マニュアル間の行き来のしやすさ含め使い勝手が良いこと。
- ・製品の仕組みや使い方、施工説明での作業全体の俯瞰性が高いこと。

一方で、IEC/IEEE82079-1などマニュアルの基本が押さえられているかの観点では産業部門の方が優れており、一般部門としては奮起を促したいところである。

優秀賞/学生賞のダブル受賞となったパナソニックの洗濯乾燥機は、優れた目次や説明にストーリー性を持たせたことで、多機能にもかかわらずわかりやすいマニュアルになった点が高評価となった。マニュアルオブザイヤー受賞となったTOTOの施工説明書は、ベテランの施工業者と初心者のどちらにも配慮ができている点、同時に前製品の取扱説明書に関する改善課題5つを明確化したうえで改善に取り組んでいる点が高評価となった。

●産業部門

本年、産業部門の応募点数は8点であった。COVID-19の影響下の昨年は2点にとどまったが、応募数は増加している(ちなみに、2019年の応募数は14点であった)。

このうち4点が継続的に応募のある会社であり、4点が初応募の会社であった。継続的に応募のある会社の作品は、IEC82079-1に適応しており安定した表現力で高く評価された。4点のうち3点が優秀賞に選出され、いずれもマニュアルオブザイヤー候補にもノミネートされている。

初応募の作品には経験不足の感が否めなかった。形式的に手順を記載することに追われ、ユーザー目線での作り込みという観点が不足している。IEC82079-1など国際規格の理解を深め、表現力が整うことで解消されるだろう。そのなかで、初応募ながら意欲的な作品もあり、奨励賞に選出されている。

応募状況

■ 応募点数（総数29点）

一般部門	……………	21点
産業部門	……………	8点

■ 応募会社（五十音順）

株式会社アイシン

アイリスオーヤマ株式会社

インフォコム株式会社

エスペック株式会社

オリオン機械株式会社

カシオ計算機株式会社

株式会社誠和

THK株式会社

TOTO株式会社

株式会社ニデック

株式会社バッファロー

パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ株式会社

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社

パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社 キッチン空間事業部

パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社 ランドリー・クリーナー事業部

日立グローバルライフソリューションズ株式会社

株式会社 富士通ゼネラル

マツダエース株式会社

株式会社ミットヨ

ヤマハ株式会社

株式会社LIXIL

リコークリエイティブサービス株式会社

一次審査

■ 審査基準

使用説明の国際規格IEC/IEEE 82079-1 Edition 2.0に対応した評価基準で審査を行いました。一般的なチェックリストは使用せず、ジャパンマニュアルアワード委員会が独自に作成した評価表と呼ばれるシートを使用して採点しています。応募分野により、またマニュアルの性質により、チェックリストでは当てはまる項目と当てはまらない項目の違いが顕著になる場合があります。このような場合、チェックリストを使うと評価結果にばらつきが出て、公正な評価が難しくなる恐れがあるため、より柔軟性のある評価表を使用しています。

■ 審査方法

審査委員はジャパンマニュアルアワード委員とジャパンマニュアルアワード実行委員です。一冊のマニュアルにつき3～5名の審査委員が審査しました。なお一部のマニュアルについては出張審査を行いました。

■ 講習会

ジャパンマニュアルアワード実行委員になった人には、評価基準と評価表の使いかたを学ぶために10時間の講習を受けていただきました。

講師：ジャパンマニュアルアワード委員

遠藤 幸夫

清水 義孝

徳田 直樹

瀬戸 大地

二次審査

■ 審査方法

例年は審査委員全員が2日間に渡って全作品の相対評価を行なうのですが、本年はコロナ禍のために全員参集がかなわず、参加可能な審査委員のみで、一次審査における上位マニュアルを中心に1日で相対評価を行ないました。

● ジャパンマニュアルアワード委員 (五十音順)

<委員長>

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

<委員>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

清水 義孝 株式会社クレステック

瀬戸 大地 株式会社クレステック

根本 隆志 元キヤノン株式会社

野村 雅樹 YKK AP 株式会社

蓮沼 規伊子 デジタル総合印刷株式会社

林 奈都子 株式会社 富士通ラーニングメディア

林 美里 DMG森精機株式会社

東野 誠 Polaris Infotech株式会社

樋口 史代 パナソニック株式会社

久恒 克人 キヤノンアネルバ株式会社

間瀬 元 TOTO株式会社

道坂 奈緒美 日立グローバルライフ

ソリューションズ株式会社

和田 育典 リコーククリエイティブサービス株式会社

● ジャパンマニュアルアワード2023 実行委員 (五十音順)

<実行委員長>

中原 司郎 パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ株式会社

<実行副委員長>

遠藤 幸夫 ヤマハ株式会社

小平 勉 日本電気通信システム株式会社

<実行委員>

安積 美香 パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ株式会社

上野 由紀子 DMG森精機株式会社

蒲原 久美子 HOTARU株式会社

小島 真一郎 YAMAGATA株式会社

斉藤 雅人 ヤマハ株式会社

都築 行博 岡村印刷工業株式会社

名古屋 美穂 キヤノン株式会社

西山 貴 マツダエース株式会社

<事務局>

井上 彰 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

上田 優子 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

●ジャパンマニュアルアワード2023 産業機器部門分科会（五十音順）

<主査>

久保 達昭 株式会社ハル

<実行委員>

相武 絵美 株式会社テクノツリー

石川 喬之 株式会社 SCREEN クリエイティブコミュニケーションズ

上野 由紀子 DMG森精機株式会社

梯 珠美 エスペック株式会社

橋本 玲子 村田機械株式会社

林 美里 DMG森精機株式会社

水口 実 株式会社情報システムエンジニアリング

宮坂 朋子 株式会社ミットヨ

和田 司 日置電機株式会社

<事務局>

山崎 敏正 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

学生審査

常葉大学 安武研究室参加 5名（全員3年生）

神奈川大学 高野倉研究室参加 5名（全員3年生）

千葉工業大学 安藤研究室参加 6名（全員4年生）

三次審査

■ 審査方法

二次審査を経て各部門の上位マニュアルを、有識者による選考委員で審査しました。

●選考委員（五十音順）

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

大村 宏之 一般社団法人 日本食品機械工業会 事業部 部長

河村 真紀子 主婦連合会 会長

黒田 園子 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 西日本支部 委員

島田 能里子 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 評議員

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト部 企画管理課 課長

徳田 直樹 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 副評議員長

綿井 雅康 一般財団法人 テクニカルコミュニケーター協会 会長

十文字学園女子大学 副学長（人間発達心理学科 教授）

表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会(最終審査)

本年は、各賞の表彰式およびマニュアル オブ ザ イヤー選考会をまとめて、10月のTCシンポジウム京都開催で実施しました。

表彰式では、受賞作品の関係者26名が出席し、奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞の表彰状と盾が会長および実行委員長から授与されました。さらに、マニュアル オブ ザ イヤーにノミネートされた4社に対しても、表彰状が会長から授与されました。

マニュアル オブ ザ イヤー選考会では、ノミネートされた4作品（4社）の制作担当者によるプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションは1作品10分という限られた時間ながら、各社とも作品のコンセプトや取り組みなどが情熱的に語られ、白熱したものになりました。プレゼンテーションの終了後、選考委員による別室での討議を経てマニュアル オブ ザ イヤーが発表されると、会場は大いに盛り上がりました。マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社には表彰状およびトロフィーが授与され、受賞者は受賞のスピーチにて、表彰式を配信で見ている同僚に向け、受賞の喜びを伝えていました。

■ 式次第

●表彰式

1. テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
2. 独立行政法人 国民生活センター商品テスト部企画管理課 課長 鈴木弘彦様 挨拶
3. ジャパンマニュアルアワード 2023 中原実行委員長による経過報告
4. 表彰式：奨励賞、学生賞、特別賞、優秀賞（表彰状・盾の授与）
5. 表彰式：マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞（表彰状の授与）

●マニュアル オブ ザ イヤー選考会

1. ノミネート作品プレゼンテーション
 - (1) TOTO株式会社
ウォシュレット一体形便器（ネオレスト AS/RS 床置床排水大便器）
CS921B/BH 施工説明書（H0B454）
 - (2) パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社
マルチ監視ユニット
取扱説明書（施工説明付き）
 - (3) マツダエース株式会社
MAZDA CX-60
電気配線図
 - (4) 株式会社ミットヨ
測定投影機 PJ-PLUS
ユーザーズマニュアル

2. ジャパンマニュアルアワード 2023 評価概要

- ・ジャパンマニュアルアワード委員会清水委員からの報告
- ・別室にて選考委員による選定協議

3. マニュアル オブ ザ イヤー発表および表彰

- (1) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 挨拶
- (2) ジャパンマニュアルアワード 2023 中原実行委員長から発表
- (3) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長から表彰状・トロフィーの授与
- (4) マニュアル オブ ザ イヤー受賞会社 挨拶
- (5) テクニカルコミュニケーター協会 綿井会長 講評



TOTO株式会社へのMOY表彰状授与の様子



MOY受賞したTOTO株式会社の記念撮影の様子

審査結果

■ 入賞マニュアル一覧

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
マニュアル オブ ザ イヤー		ウォシュレット一体形便器（ネオレスト AS/RS 床置床排水大便器） CS921B/BH 施工説明書（HOB454）	TOTO株式会社	14
イノベティブ特別賞		MAZDA CX-60 電気配線図※	マツダエース株式会社	16
優秀賞	一般部門	Type-C 接続ドッキングステーション （USB PD3.0 対応）LUD-U3-CGD 取扱説明書	株式会社バッファロー	21
		アラウーノ手洗い（据置きタイプ）施工説明書、 足元配管カバー 施工説明書	パナソニック エレクト リックワークス クリエイツ株式会社	22
		RICOH IM C6010 / C5510 / C4510 / C3510 / C3010 / C2510 / C2010 使用説明書、消耗品交換動画	リコークリエイティブ サービス株式会社	23
		MAZDA CX-60 電子取扱説明書 / MAZDA CX-60 MAZDA DRIVER'S GUIDE	マツダエース株式会社	24
		ドラム式電気洗濯乾燥機 NA-LX129BL/NA-129BR 取扱説明書	パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社 ランドリー・ クリーナー事業部	25
	産業部門	マルチ監視ユニット 取扱説明書 （施工説明付き）※	パナソニック株式会社 エレクトリック ワークス社	18
		測定投影機 PJ-PLUS ユーザーズ マニュアル※	株式会社 ミットヨ	19
		MAZDA CX-60 電気配線図※	マツダエース株式会社	20

※ マニュアル オブ ザ イヤーノミネート

賞名称		マニュアル名称	応募会社	解説
特別賞	有識審査委員特別賞 整備士がよろこぶで賞	MAZDA CX-60 電気配線図※	マツダエース株式会社	20
	実行委員特別賞 メディアの選び方がよ かったで賞	G-SQUAD GBD-H2000 はじめにお読みください 3515*JA、操作ガイド Module No.3515	カシオ計算機株式会社	26
	学生賞	ドラム式電気洗濯乾燥機 NA-LX129BL/ NA- LX129BR 取扱説明書／かんたんガイド／「スマホで洗 濯」アプリ活用ガイド	パナソニック株式会社	27
奨励賞		内装ドア 開き戸 施工説明書 VERITIS シリーズ	パナソニック エレク トリックワークス クリエイツ 株式会社	28
		OMNledge_ パネルマルチ接続モデル ユーザーズマニュアル Ver2.0	T H K 株式会社	29

■ 応募数及び受賞数

ジャパンマニュアルアワード 2023 は、応募が 29 作品。

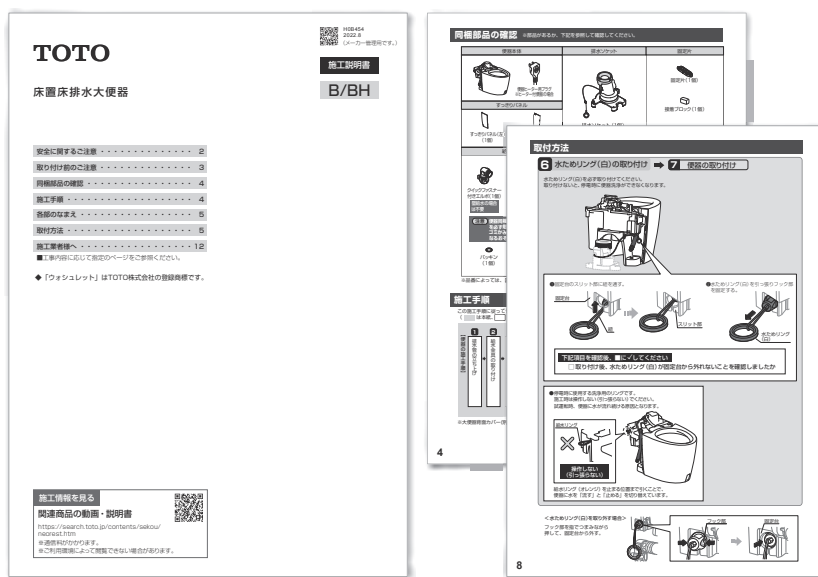
部門	応募数	受賞数			
		優秀賞	特別賞	学生賞	奨励賞
一般	21	6	1	1	1
産業	8	3	1	0	1
合計	29	9	2	1	2

入賞マニュアル解説

■ マニュアル オブ ザ イヤー ノミネート賞受賞作品 マニュアル オブ ザ イヤー 受賞 優秀賞受賞

一般部門

ウォシュレット一体形便器 (ネオレストAS/RS 床置床排水大便器) CS921B/BH 施工説明 (H0B454) TOTO株式会社



● 選考委員のコメント

製品仕様の変更 (停電用電池の不利用化) に伴う設置施工方法の変更を、「取扱説明書を読まずに作業する傾向にあるベテランの施工業者」に対して確実に認識・把握してもらうための改善が、本作品の出発点になっている。同時に、前製品の取扱説明書に関する改善課題5つを明確化したうえで、改善に取り組んでいる。プレゼンテーションで説明された改善過程には、カスタマーセンターに寄せられた情報の分析、関連部門との連携など、極めてオーソドックスであるが、熱意と丁寧さが感じられた。施工説明の表現方法に関する改善・工夫も、赤色の利用、吹き出しによる解説、操作図解の連続表示など、オーソドックスである。オー

ソドックスな改善を丁寧に実現することで、質の高い設置施工説明書が実現されている。その一方で、重要な設置施工手順については、新たにアニメーション動画を作成し、QRコードから視聴を誘導している。動画は、施工業者の視線位置から、施工の操作手順と製品本体の設置ポイントを提示したものになっている。音声やキャプションは含まれていないが、操作に関する説明が一目瞭然に理解できる。さらに、ユーザーからの問い合わせの多い情報を整理して、TC制作部門が運営するサイトに掲載し、そのアクセス利用状況を把握している点も高く評価された。また、「本作品 (施工説明書) を捨てさせない」工夫という改善課題は、これ

までのマニュアルアワードの中では斬新な課題だといえる。専門職を対象とした取扱説明書であっても、読ませる工夫、初心者にもわかりやすく、そ

して、正しく使用（施工）してもらう工夫が求められており、まさに、それを実現したのが本作品であるといえる。

● 二次審査委員の解説（シンポジウム展示パネルから転載）

情報量、用紙サイズ、文字サイズなど丁度良いバランスで、イラストも美しく、わかりやすい施工説明書である。

既存機種からの変更箇所を赤で記載し目立たせているのが特徴である。施工に不慣れな施工者は、全行程。ベテラン施工者は、変更箇所（赤記載部分）を注視すればよいと、効率よく紙面を追うことができ、とても有効な情報である。

裏表紙の情報（注意書）は、梱包箱を開けると真っ先に目に入るように工夫されており、既存機種からの変更点が施工前にわかることは効果的で

ある。ただ、施工説明書の内容と連動してないのが残念。施工説明書の何ページに詳細があるのかを記載などすれば、さらにうまく活用できる。

表紙のQRコードは、床置床排水大便器のトップページへ誘導されるため、対象機種の施工動画へなかなかたどり着くことができない。各施工手順内のQRコードから誘導される施工動画は、紙面で説明しにくい（伝わりにくい）部分をうまく補っている。しかし、キャプションは線が細く背景に紛れそうな部分があり、改善を期待する。

● 受賞者の声：TOTO株式会社

このたびは、栄誉あるマニュアルオブザイヤーに選んでいただき大変光栄に思っております。

この栄誉は、私達だけではなく、マニュアル制作に関わりました社内関連部門の関係者や、ご協力いただいた制作会社の方々との連携による成果であると思っております。本当に心から感謝申し上げます。

私たちの活動のレベルがどの位置にあるか社外評価を通じて確認するために、今回ジャパンマニュアルアワードに応募しました。最初に、どのような取り組みを行って施工説明書をより良くするか検討を行いました。検討時には、考え方の柱として「お客様が商品を満足して使用していただくこと」とし、そのためには施工業者様に商品を正しく安全に施工をしていただく事が前提になります。

正しく安全に施工していただくために、施工手順や注意事項を分かりやすく、漏れなく記載しました。しかし、改善した施工説明書を使用して施工業者様に施工をしていただくと、いくつかの施工現場であまり読んでいただけない施工業者様がいらっしゃる事が分かりました。それを受けてプレゼンテーションで報告させていただいた、見てもらうための工夫を検討し、施工説明書に盛り込みました。

今回、社内関連部門の多くの関係者と連携して制作に取り組んだことで、さまざまな視点を学ぶことが出来ました。これからも「お客様が商品を満足して使用していただくこと」と、すべての人に快適な暮らしを提供するため、マニュアルを充実させていきたいと考えています。

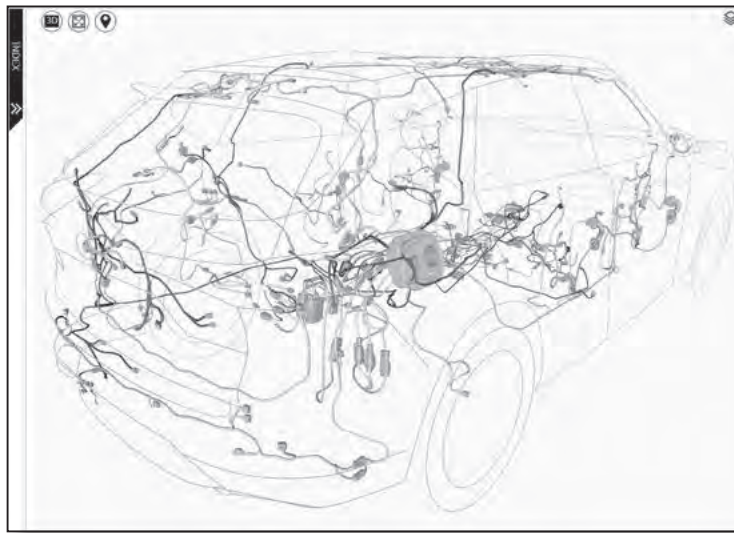
■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品

イノベティブ特別賞受賞
優秀賞受賞

産業部門

MAZDA CX-60 電気配線図

マツダエース株式会社



2023年度マニュアルオブザイヤーの最終審査において、本マニュアルを「イノベティブ特別賞」として表彰することに決定した。本マニュアルは、自動車整備士を対象として、電気系統の点検・修理作業に不可欠な電気配線図を、WEBページに3次元で表現したものである。整備士はページを操作することで、配線図全体を3次元上で回転させて作業に必要な角度や位置から確認できること、必要な配線系統のみを表示すること、多端子コンセントの接続情報を明示することなどが、実現されている。

本マニュアルが開発されるまでは、紙媒体上に電気配線図が表示された二次元のマニュアルが使用されていたとのことである。とりわけ今日の自動車は、多くの部品で電子化と情報化が進み、かつてないほどに電気配線量が増大し、また複雑なも

のになっている。そうしたなかで、自動車整備士は、二次元上で示された電気配線図の情報をもとに、自動車の躯体内に装備された三次元での配線について、「何がどこにあり」、「どの電線がどこでどれにつながっているのか」を推定する必要があり、作業効率が大きく阻害されることが現場での課題となっていた。この課題を解決すべく、自動車メーカーの担当部署の協力のもとで、電気配線図を電子化してWEB上で表現することに取り組み、その結果として実現されたのが本マニュアルである。

最終審査で「イノベティブ特別賞」として表彰することにした理由は次の通りである。第一の理由は、まさに「イノベティブ」、つまり、これまでになかった新しい取り組みをしている点である。本マニュアルを実現するために、メーカーの担当

部署が開発のために制作した、精密で多様な情報を含んだ三次元の設計図から、必要な情報を精選して、異なる形式での三次元データに変換している。しかし、最終審査で評価されたのは、マニュアルの三次元化でも、三次元化のための変換過程でない。誤解を防ぐために平易な語句で表現すれば、「WEBページに三次元で表現したことが表彰されたわけではない」である。表彰に値すると判断したのは、「課題解決のために、それまで使われていない新たな技術を活用した点」である。新たな技術を果敢に活用して新しいスタイルのマニュアルを世に送り出したことこそがイノベティブである。その意味で、どんな製品・サービスの、どんなタイプのマニュアルであっても、「イノベティブ特別賞」を受賞するチャンスはあると考える。

第二の理由は、前述しているとおりの、自動車メーカーの担当部署との連携である。今日のTC技術には、連携・協働を含むことが提唱されている。マニュアルの製作・改良のためには、他部署と連

携・協働することが必須だといえる。本マニュアルの場合は、自動車の製造メーカーのみならず、電気配線を構成する部品のサプライヤー企業からも許諾を得なければ、実現しなかったと推測できる。まさに連携・協働することで「イノベティブ」なマニュアルが実現されたといえる。こうした取り組みが、TCの全ての現場において実践されることを願う次第である。

最後に、本年度のTCシンポジウムは、メインテーマが「こんなところにも使えるんやって、TC」であった。このテーマには、これまで培ってきたTCの技術を、あたらしい分野に展開し活用していく意気込みを込められている。同時に、展開していくには、TCの技術自体もイノベティブを起こし続ける必要があると強く感じる次第である。

今後のマニュアルアワードにおいても、「イノベティブ特別賞」を受賞するマニュアルが登場することを切に願う次第である。



■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品 優秀賞受賞

産業部門

マルチ監視ユニット 取扱説明書(施工説明付き) パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社

情報がうまく整理されており、さらに色の付け方でメリハリを出している。PDF ならではのよさを追求したマニュアルである。UD フォントを使用している点もPC 画面で見るとうえて配慮されている。

操作が完了したことが明確な手順からは、見た目だけに力を入れているのではなく、基本的に忠実なマニュアルとしても評価できる。

丁寧に説明された概要の情報は全体像を把握しやすいものとなっている。ただ、操作する前の情報としてはもう少し簡略化してもよいと思われる。接続の情報は接続方法のページに集約するほうがベターである。接続方法については4.1 (P36) で温度センサー・湿度センサーの接続がイメージできない課題が見られた。

製品に同梱されている施工説明書(簡易版)ではイメージできるが、簡易版は接続時の注意を記載しているだけなので、詳細版であるPDFの取扱説明書にこそ簡略化されていない接続図を記載してほしい。



■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品

優秀賞受賞

産業部門

測定投影機 PJ-PLUS ユーザーズマニュアル
株式会社 ミットヨ

必要なときに必要な情報が見つかりやすい、検索性のよいマニュアルだといえる。目次を見ると、どこに何が記載されているのかがわかるため、初心者の方は最初から読み進め、ベテランの方は目的の作業手順を探して確認するという使い方に適している。また、目次を見ただけで動画がある項目を確認でき、動画の数も適度なため、読み手は動画も確認したくなる。

今回、光源がハロゲンからLED に変わったということで、LED に関する注意事項がまとめて書かれていた。これまでハロゲンの製品を使用してきたお客様は、新たに知るべきことを効率よく確認することができる。ただ、注意事項を守らないとどうなるのかの記載が不足している部分があったため、結果についても充実させることで、さらに読み進めやすくなるだろう。

準備、操作、メンテナンス、トラブル発生時など、あらゆる場面で近くに置いて使いたくなるマニュアルに仕上がっている。特に、アラーム発生時に、トラブルシューティングの項目が活用できるだろうと想像できる。

操作章では、冒頭に操作フローが記載されていたため、各操作手順を確認しながら、全体の流れのどの部分の操作をしているのかが明確で、安心して読み進められる。残念ながら、電源をオフにする工程が操作フローになく、手順説明も記載されていなかったため、追加することでさらに完成度の高いマニュアルに仕上がるだろう。



■ マニュアルオブザイヤーノミネート賞受賞作品

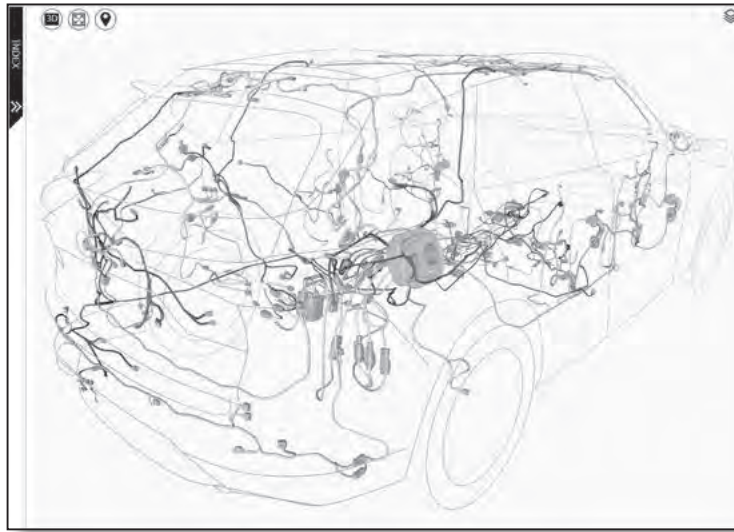
優秀賞受賞

有識審査委員特別賞(整備士がよろこぶで賞) 受賞

産業部門

MAZDA CX-60 電気配線図

マツダエース株式会社



「配線図は、整備情報の一部である。」

この電子配線図は、マツダ車販売店のサービススタッフ（自動車整備を3年以上経験）が対象読者であり利用者だ。

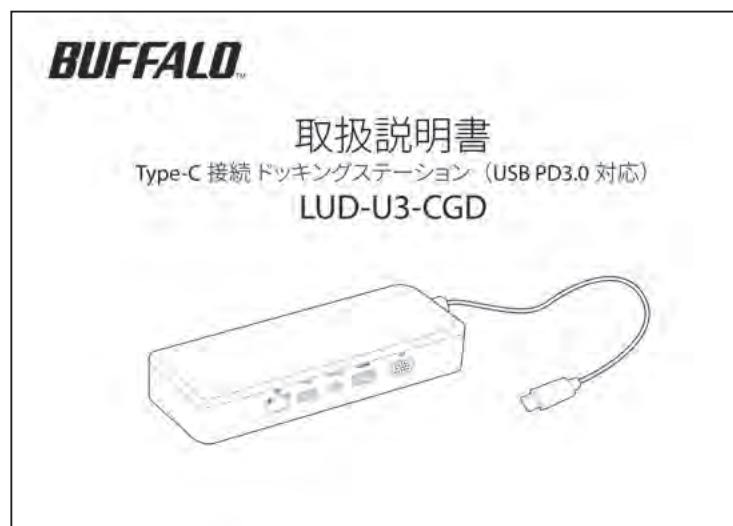
車業界のディーラーメンテナンスの現状詳細はわからないが、以前の紙面またはPDFよりも使いやすいだろう。大きな要因は、配線ルートとコネクタ位置の可視化とそれを3D化で位置関係をぐるぐると全方向から確認することができること（ロケーション図）。これがカラー配線図と連動し（回路図）、コネクタの雄雌を切り替えて確認もできる

こと（コネクタ図）だ。それらにより、この車輛の経験が浅くても、配線がどこを通っているか考え込まなくても、素早くわかりメンテナンス作業ができるだろうと思われる。なお、このサービスシステムやサービスマニュアルとの連携がスマートか、電子部品の抵抗値の確認や電装系統のトラブルシューティングとの連携がどのようにできているかは定かではない。しかし、一定の知識と経験があるサービススタッフは情報の結びつけができるだろう有効な情報提供だと思われる。他の業界でも参考となるだろう。

優秀賞受賞

一般部門

Type-C 接続ドッキングステーション (USB PD3.0 対応) LUD-U3-CGD 取扱説明書 株式会社バッファロー



製品を使用するための情報と安心・安全情報を表裏で分けるなどレイアウトが工夫されており、わかりやすさ、探しやすさ、取り扱いやすさに優れたマニュアルである。

片面にすべての使用情報が記載されていることから、使用方法全体を俯瞰でみることができる。折り曲げた際も、各項目が泣き別れしなくなっており、利便性の高い作りである。イラストのサイズが適切で、アングルも統一されているため、視認性が高い。

「マルチディスプレイについて」、「LAN ケーブ

ルの接続」の説明では、表とイラストを効果的に組み合わせ、理解しやすい表現になっている。紙面に余裕があれば、ポート（機器）ごとの接続例をイラストで紹介するなど、さらに分かりやすくすることも期待できる。

裏面左から2つ目のブロックの最下段に受信障害について「取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。」と記載があるが、受信障害についての記載は見当たらない。受信障害に対する記載があると良い。

優秀賞受賞

一般部門

アラウーノ手洗い（据置きタイプ）施工説明書、足元配管カバー 施工説明書 パナソニック エレクトリックワークス クリエイト株式会社

アラウーノ手洗いのオプション品である足元配管カバーは、出荷台数が極めて少ないため、施工されること自体がレアケースとなる。

そのため、アラウーノ手洗い施工説明書に足元配管カバー施工説明書へ誘導する導線を確認した上で、足元配管カバー施工説明書は分冊構成としている。これにより、アラウーノ手洗い施工説明書内で「足元配管カバー」の記載を目立たせないようにして、足元配管カバーを設置しない施工者を混乱させないように配慮している。

また、足元配管カバー施工説明書への誘導を明確にすることで、アラウーノ手洗い施工説明書と足元配管カバー施工説明書の行き来をわかりやすく表現し、足元配管カバーを設置する現場で間違いのない施工をしていただくための配慮もしている。

一方で、足元配管カバーがオプションであることやアラウーノ手洗いとの位置関係などの俯瞰情報が不足している。

俯瞰情報を充実させることで、全体把握がしやすくなり、足元配管カバー施工説明書への誘導や分冊構成の行き来がよりわかりやすくなる。



優秀賞受賞

一般部門

RICOH IM C6010 / C5510 / C4510 / C3510 / C3010 / C2510 / C2010 使用説明書 消耗品交換動画

リコークリエイティブサービス株式会社



応募対象マニュアルは、機器操作部及びパソコンで表示する「使用説明書」と「メンテナンス動画」であった。

「使用説明書」は、マニュアルの基本的な機能をしっかり押えた上で、見る側の立場に立ったデザインや、文字サイズの変更、イラストの拡大表示などの仕掛けが施されている。結果として、見やすく分かりやすいマニュアルに仕上がっている。

イラストは実機に近いリアルな仕上がりで、視認性が高い。しかし、対象製品そのものの構成部品や機能など、全体が俯瞰できる情報がないため、理解が難しいところがある。マニュアル冒頭に製品概要や構成図などを記載することで、さらに製品の理解促進に繋がるだろう。

また、パソコン上のマニュアルを、QRコード表示で、スマートフォンに切り替えて読むことが可能になり、使い勝手も向上している。

「メンテナンス動画」は、最低限のポイントが伝わっており、時間も短く、分かりやすい。一方で、冒頭部で何の説明をするのかの宣言がないので、不親切感がある。実物をただ見せるだけでなく、字幕やテロップなども補足情報として活用することも必要である。また、Web動画への誘導方法がFAQということで、Webマニュアルからの導線も改善すれば、さらに活用されるだろう。

優秀賞受賞

一般部門

ドラム式電気洗濯乾燥機 NA-LX129BL/NA-129BR取扱説明書

パナソニック株式会社 暮らしアプライアンス社 ランドリー・クリーナー事業部

高機能の斜めドラム洗濯・乾燥機は機能が多い。情報を羅列しただけのマニュアルではユーザーは目的の情報を探すことが難しくなってしまう。そこで、優れた目次を用意すること、情報に説明に中心となるストーリー（流れ）を作ることが重要になってくる。

このマニュアルには目次の外に、製品の特長をピックアップした「おすすめ機能」のインデックスが用意されている。使い方のストーリーは、別紙の『かんたんガイド』に整理されている。洗剤の自動投入機能は手動投入と並記されることが一般的である。これに対し、自動投入を中心としたストーリーを作ることで、この製品を使ったベストなお洗濯体験を促している。

整理された安全注意文、おしゃれな表紙のデザイン、視認性の良い紙質、イラストを多用したわかりやすい説明と、情報の内容に配慮されたものになっている。これまでの問い合わせやリクエストに応え続けて出来上がったマニュアルであることが強く感じられる。改善を重ねた完成度の高いマニュアルといえる。

ただし、機能の多さは改善で対応するには限界があるかもしれない。スマートフォンとの連動などを考えると、新しい表現設計が必要ではないだろうか。



受賞

■特別賞受賞作品

●実行委員特別賞(メディアの選び方がよかったです賞) 受賞

一般部門

G-SQUAD GBD-H2000

はじめにお読みください 3515*JA、操作ガイド Module No.3515

カシオ計算機株式会社

使用説明の対象製品は、スマートウォッチのように多くの機能を備えたマルチスポーツ対応の腕時計G-SHOCKである。5個のボタンの操作によって約20種類の機能が使える。この使い方は、マニュアルを読まなければわからないだろう。

そのような使い方を紙媒体「はじめにお読みください」とWebマニュアル「操作ガイド」に適切に配分していることを評価して、「メディアの選び方がよかったです賞」を贈ることとした。

紙媒体は、良好な精度で心拍などを計測するための装着のしかたのように必要不可欠な使い方を記載して箱に収めて、Webマニュアルは、すべての使い方を記載している。しかし、紙媒体とWebマニュアルの役割が、明確にわけられていないため、読み手にわかりにくい。また、紙媒体にあるQRコードのリンク先が、1か所を除いてWebマニュアルのトップページになっていて、当該ページになっていないため、読み手の期待と異なっている。これらを改善するとよくなるだろう。



●学生賞

一般部門

ドラム式電気洗濯乾燥機 NA-LX129BL/ NA-LX129BR

取扱説明書／かんたんガイド／「スマホで洗濯」アプリ活用ガイド

パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社 ランドリークリーナー事業部



学生賞は、最終審査対象の作品に対して審査協力の3大学の学生により審査され、決定されます。本年度は、神奈川大学（高野倉雅人教授研究室）、常葉大学（安武伸朗教授研究室）、千葉工業大学（安藤昌也教授研究室）の合計16名の学生により審査が行われました。審査は、大学ごとに行われました。まず、学生たちが話し合い評価の観点を定めた上で個人評価を行い、それぞれの作品に対して意見を交わしたのちに全体としての評価を決定しました。

選ばれたパナソニック株式会社ドラム式電気洗濯乾燥機NA-LX129BL/ NA-LX129BRは、洗剤や柔軟剤を自動投入する機能がついた上位機種です。そのため、従来の洗濯機と比べ機能が多くなっており、かんたんガイドもA4サイズ8ページ分に相当する分量です。取扱説明書はフルカラーで、説明対象の状況を表現した写真や図に加え随所にイラストが用いられており、「説明書感がないから楽しく読める」といった評価がありました。取扱説明書で

は情報量が多いものの、目次ページでのカテゴリーごとの色分けが、本文で用いられている見出しの帯の色など、紙面のベースカラーと対応しており探しやすいさも評価された点でした。

一方、かんたんガイドは、使用や手入れなど普段の使用で必要な情報に限って掲載しているものの、「手順がわかりやすく示されているのに操作画面の表示が小さく見にくい」などの指摘がありました。かんたんガイドが小さな画面で表示していても、取扱説明書本体を用いて一度使用した経験があれば、十分思い出せる程度かもしれません。しかし、最初からかんたんガイドを頼りにする場合には、学生審査での指摘のような課題はあると言えます。

日常的に取扱説明書に触れることが少ない学生たちの視点での評価には、新たな気づきがあると思います。今後も学生賞にご期待いただければと思います。

●奨励賞

一般部門

内装ドア 開き戸 施工説明書 VERITIS シリーズ

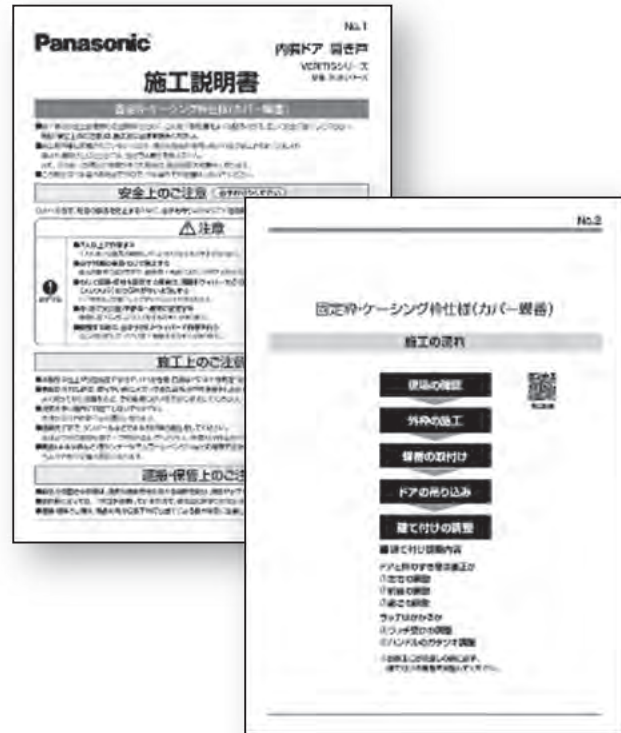
パナソニック エレクトリックワークス クリエイツ 株式会社

環境への配慮から思いきって印刷物を1枚のみに減らした試みが評価された。1枚の印刷物に掲載されているQRコードからPDFや動画に誘導する構成に変更した。紙の廃棄物削減につながる大胆な構成変更である。

以下の点で今後の改善を期待したい。紙とPDFの役割、複数ある各PDFの役割が把握できない。全体を俯瞰できるような情報が不足しているため、まずどこから閲覧すべきが明確でない。PDFのみに掲載されているチェックリストは、チェックを入れることができないため、チェックリストとして効果的なのか疑問に残る。

動画は、余白の取り方や文字の大きさが考慮されていて見やすい。尺が長いため、インデックスをつけるなどして、施工者が必要な情報に短時間でたどりつけるような工夫を期待する。また、コマ送りのような動きのため、動きが表現できていない部分も見受けられた。例えば、ドライバでねじを回す向きがわかりにくい点である。

改善点は多いが、SDGsへの貢献を意識することで、現場でのマニュアルの使い方を変える思いきった取り組みである。



●奨励賞

産業部門

OMNIedge_ パネルマルチ接続モデル ユーザーズマニュアルVer2.0

THK株式会社

引きやすい目次とわかりやすい説明がなされた良いマニュアルである。通常目次の外に、「一覧目次」と「イラスト目次」が用意されている。「一覧目次」は目的や対象を絞り込みやすく階層化している。例えば、目的である「4 設置と確認」の下の階層は、対象物である「4.2 センサモジュール」「4.3 演算アンプ」「4.4 延長ケーブル」・・・となる。必要な情報を合理的に絞り込んでいける。

「イラスト目次」では、各装置単体のイラストを見せるのではなく、システムの構成全体を見せている。読者は対象となる装置とシステム全体の中でその装置を概念化して情報を引くことになる。单元ごと（タスクやトピックなど）に説明を丁寧にするとは、このような目次と合わせて効果を発揮するものである。

各単元の説明は構造化されており、イラストを多様化してわかりやすいものになっている。OK と NG の例が具体的で目視で理解できる。だからこそ、例示の間違い（p41）には十分注意を払って欲しい。

完成度の高いハードウェアの説明に比べ、後半のソフトウェアの説明は表現の再考が必要である。



選考委員コメント

安藤 昌也 千葉工業大学 先進工学部 教授

今年もジャパンマニュアルアワードの三次審査をさせていただきました。私はUXデザインや人間中心設計を専門としています。審査の際も、取扱説明書を読むユーザーの視点で作品がどのように扱われることを想定したのか、どのように読まれ・理解されることを想定したのかといった観点で審査をしています。今年の三次審査に残られた作品にも、ユーザー視点が明確に読み取れるものが多くありました。

取扱説明書の扱い方という点では、紙だけでなくPDFやHTML、動画といった複数のメディアを組み合わせたものが増えてきています。しかし、それぞれのメディアにどのような役割を持たせるのか、はっきりしていないものもありました。もちろん、ユーザーが都合の良いメディアで閲覧する、という意味はあるかもしれませんが、それぞれのメディアの特性を活かして連携する工夫も必要になると思います。

また、近年増えている動画についても、改めてユーザー視点で考えてみる必要があるでしょう。動画を

提供すれば、それだけでわかりやすくなるわけではありません。その点、TOTO株式会社ウォシュレット一体形便器（ネオレストAS/RS床置床排水大便器）施工説明書に付随する動画は印象に残りました。リアルなCGによる配管工事の動画は施工者目線で作られており、まさにユーザー“目線”の動画となっていました。施工現場では多様な国籍、多様な年代の方が働いていると伺っています。そうした利用状況も考慮した取り組みだと言えるでしょう。

「ユーザーのことを考えて制作する」。これは当たり前と言われることではありますが、実践し実現することはなかなか難しいことだと思います。それでもこうして、素晴らしい作品が毎年応募されるのは、ひとえに皆様が真摯にユーザーと向きあってこられたご努力があつてのことだと思います。今後もさまざまなメディアを有効に活用し、ユーザー視点でのより良いマニュアルづくりに取り組まれることを期待しております。

審査を通じ、我が国における最先端のマニュアルに触れることができるMOY選考会は、大変貴重な機会です。今回も興味深く拝見させて頂きました。

10年ほど前のマニュアルは、“本編”の他に、“セットアップガイド”、“操作概要(かんたんガイド)”など、ユーザーの理解を助ける分かりやすい附属マニュアルを“ライフサイクルのどの作業に”、“どのように作るか”などが課題の一つだったように思います。

しかし近年の傾向は、電子情報を用いて“本編のどの情報をどのように補完するか”、という流れが加わってきたように感じます。それは本文にリンクを設

けたPDF版マニュアルを超え、QRコードを用いた“操作手順動画”や“異常な音の例”の提供、及び3Dによる構成部品配置情報など様々です。感覚的な内容をいかに具体的な情報として伝えるか、という点が急速に進化している印象を受けます。

これからは取説本編だけでなく、それを補完する電子情報の内容、そしてそれらの適切なバランスの考慮による「優れたマニュアル」が開発されていくでしょう。



マニュアルの在りようが変化し続けていること、制作側が少しでも分かり易く、見やすくするために不断の努力をしていることを強く感じました。審査会でのプレゼンテーションでは、マニュアルを手にとっただけでは分からなかった「作り手」の努力と工夫のプロセスを知ることができ、制作者の熱意も伝わってきました。

2023年のマニュアルアワードを受賞されたTOTO株式会社のウォシュレット一体型便器の施工説明書は、施工する作業者に必ず気づいてもらいたい重要な変更点について、どうしたら確かに伝わるかということを考え抜いて作られているものでした。製品のパッケージを開けたときに一番目につくところに重要な注意書きを置くという、梱包工程との連携を必要とするリアルな工夫、動画では質感を現物に近くし、カメラの目線を施行時の作業者の目線と同じにするなど、様々なレイヤーでの工夫を組み合わせて施工品質の向上を目指していることが秀逸でした。マニュアルは「伝えるべきことを伝える」という唯一の目的がありますから、伝える手段は、ただ新しい技術を使うことに価値があるわけではなく、段ボールの箱、紙媒体、ウェブ上の動画などが連動して、「伝える」ことに最大限の効果を発揮させることが制作者さんの腕の見せ所だと感じました。

特別賞を受賞されたマツダエース株式会社のMAZDA CX-60電気配線図は、近年の環境性能や安全装備の向上で複雑化の一途を辿るクルマの電気配線図を、丸ごとポリゴンモデルで3D画像化し、目的のコネクタの所在が一目で分かるようにしたことがとても画期的です。設計の現場で3Dが使われていても、修理作業のための電気配線図にそれを採用することには、費用的、時間的、データ容量的な問題を克服しなければいけなかったことを考えると、制作者さんがご苦労されたことが推察できます。この3Dの配線図は、シンプルにするところと詳しく描くところのコントラストが効いていることで見やすいものになっており、修理作業の質、時間、安全の面で大いに貢献すると思いました。

マニュアルというのは、修飾的な要素が不要な分、より「エレガント」であることを目指して欲しいと思います。無駄をそぎ落とすという意味です。言い換えれば、複雑な情報内容を最もシンプルに表すことがエレガントだと考えます。無駄を削ぎ落としエレガントなデザインにすることで、自ずと美しいマニュアルになるのではないのでしょうか。その美しさが、安全の向上や使いやすさにつながるのだと信じています。

今後もテクニカルコミュニケーションの発展に期待しています。

このたび初めてジャパンマニュアルアワードの最終審査をさせていただき、とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

審査を通じて、紙のマニュアルだけという出展は少数派となり、動きや位置の細かいところを動画やPDFといった形で伝えるビジュアル系の複合体が一気に増えたこと、産業用・業務用といわれる製品のマニュアルも一般消費者向けと同様にわかりやすさやビジュアルにすぐれたものが多く出展されていたこと、の2点が印象に残りました。また、どのマニュアルも、特にビジュアル面での工夫がされていることがよく伝わり、出展作品のレベルの高さを感じました。

今回も飛び先として動画が用意されているものが多くあり、相互に行き来することでより分かりやすく操作を伝えようとする意図が感じられるものもありました。なかでも、業務用製品で、おそらく専門性の高い製品であるはずの株式会社ミットヨ「測定投影機PJ-PLUS PJ-P1010A、PJ-P2010A」は、紙のマニュアルからQRコードを使い動画に飛ぶと、前準備から操作の説明が始まり、動画で説明する意図が良く伝わり、紙と動画がうまく連携していると感じる事例でした。また、パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社「マルチ監視ユニット BCRN3000」も産業用機器で、施工説明付きのWebPDF取説でしたが、注意事項の色分けも効果的で、重要な数値を場所ごとに明記するなど、PDFの特性を生かし、ビジュアルにもすぐれていると感じました。

動画では、音声だけでなく字幕も使い、文字情報もあわせて伝えているものも多く見受けられました。しかしながら、せっかくの字幕も背景色や製品本体が白色・字幕の文字色も白色ですと視認性が

悪く、読みづらさを感じるものもありました。せっかく字幕をつけるのであれば、ぜひ背景色との対比についてもご配慮いただければと思いました。そのなかで、パナソニック株式会社 ランドリー・クリーナー事業部「ドラム式電気洗濯乾燥機 NA-LX129BL/NA-LX129BR」は、字幕の文字色が白色に対し、字幕背景色に水色を採用し、字幕についても視認性に優れており、細かな配慮を感じました。

マツダエース株式会社「MAZDA CX-60」については、自動車の配線図を3Dに立体視できるもので、特にコネクタ類がよく見えるという意味では、このマニュアルの用途に非常に合致したビジュアル、かつWebHTMLの形式で提供される意味を感じました。

残念ながら、QRコードで呼び出してもダウンロードに時間がかかったり、ダウンロードが終わっているかどうかのわかりにくかったりと、せっかくのすぐれたマニュアルのはずが、見る前に失敗してしまったものもありました。この点は、もしかすると設定やOSなどの違いかもしれませんが、おそらく製作者の方の意図とは違うはずです。最終版のマニュアル、最終ソフトがそろった時点で実際にテストし、確認いただいているはずですが、市場では同じことが起こっているかもしれません。この点は、ぜひご注意いただきたいと思います。

今後も製品だけでなく、マニュアルにも感動するような製品がどんどん世の中にでてくることを本当に楽しみにしています。

3次審査に残った12作品は、いずれも知見と技術を活かした力作だったと思います。ここまで審査で選ばれてきただけに、情報整理、検索性、表現設計上の工夫、それぞれ甲乙つけがたい状況でした。

マニュアルの情報提供の多様化、いわゆるオンライン化、電子化が進み、現在はそれが当然の状態となっています。今回拝見した作品群もそれらを駆使したものが殆どでした。しかし中には、所謂紙媒体にて努力されている作品もあり、それぞれ全部、制作現場でのご苦勞を媒体通して感じられました。

ひとつ思ったことは、ある商品マニュアルにて、情報提供手段が紙媒体、オンライン情報、電子媒体と、多岐にわたる場合には、やはりよりシンプルな導線を提供すべきだろうと、審査をしつつますます思った次第です。

今後も、種々の媒体へのアクセス方法、アクセス先での情報提供のありかたについて、研鑽を積み重ねることを期待します。

鈴木 弘彦 独立行政法人 国民生活センター 商品テスト部 企画管理課 課長

最初に、エントリーいただいた事業者の皆様、運営にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

今年は昨年までとは大きく様変わりし、審査対象12作品の主流はウェブ動画やPDFを用いた電子マニュアルとなっていました。そのため、今回の3次審査会は電子マニュアルとしての見やすさ等の違いについて、これまでになく多くの作品を対象に比較することが出来ました。具体的には、表示されるPDFがPCやスマホの画面で見やすいか？動画の内容はわかりやすいか？再生時間は適切か？紙マニュアルと連

携しているものについては、PDFや動画にアクセスするためのQRコードの配置は適切か？紙マニュアルと電子マニュアルの役割分担は適切か？といった点が評価の差となったように思います。電子マニュアルならではの特色を生かした作品もあり、あらためて今後の電子マニュアルの可能性を感じることが出来た審査会となりました。来年以降、より進化した電子マニュアルがエントリーされることを期待しています。

本年度のMOYノミネート作品は一般部門が1作品、産業部門が3作品であった。一般部門の1作品の対象読者は施工業者であり、結局4作品ともトレーニングを受けたプロフェッショナルを対象読者としたマニュアルであった。コンシューマーを対象読者としたマニュアルは、最近では制作手法が確立されてきており、新しいコンセプトでマニュアルを作るのが難しくなっていることが、このような片寄りを生じさせたように思われる。

本年度のMOYの審査は、決定までに、今までで一番時間を要した。最終的に、TOTO株式会社の「ウォシュレット一体形便器（ネオレストAS/RS 床置床排水大便器）CS921B/BH 施工説明書」とマツダエース株式会社の「MAZDA CX-60 電気配線図」の

2作品がMOY候補として残った。2つのマニュアルは、使用目的も使い方もまったく異なっており、正直なところ比較のしようがなかった。電気配線図はワイヤハーネスの寸法比率を正確に再現したポリゴン化した3次元の配線図を、回転、拡大、縮小して見ることのできる画期的なものである。施行説明書は、ベテランの施工者に読ませるための工夫がいくつも施されたものである。どちらも優れたマニュアルなので、できるなら2つともMOYに選びたいという気持ちであったが、人によっては電気配線図をマニュアルと認めるのに抵抗感を持つかもしれないという理由を無理やり付けて、私は施行説明書の方をMOYとして選んだ。しかし、今でも私の心の中では両方のマニュアルがMOYである。



冒頭に、長年にわたり、三次審査に参加させていただいたなかでの、全体的な印象を申し上げます。それは、マニュアルが扱う「製品・サービス」のカテゴリが、すっかり様変わりしてしまったことです。つまり、かつて(20年ほど前)は、パソコンやプリンターといった情報機器のマニュアルが主流だったと感じています。その後、冷蔵庫・電子レンジ・炊飯器などの家電製品、システムキッチンやシステムバスなどの住宅機器、さらにはデジタルカメラやビデオカメラ・ゲーム機など、個人的な感覚でしかありませんが、一般消費者が身近に使用する製品のマニュアルが主流だったと感じています(もちろん、産業用マニュアルや専門職向け製品のマニュアルも審査しましたが・・)。しかし、この数年間の審査に参加するなかで、一般消費者向け製品のマニュアルは、むしろ稀な存在ともいえる気がしています。反対に、専門職向けの製品に関するマニュアル、施工説明書のマニュアルを審査する機会が増えていると感じています。どのタイプの製品・サービスであっても、マニュアルは存在し付随しているはずですが、これも個人的感覚ながら、アフターサービスにおける課題解決を目的として改良を施したマニュアル、製品自体の改良・改訂をきっかけとして、新たな試みや工夫を取り入れたマニュアル、さらには新製品の製造販売に伴って新規に作成したマニュアルなどが、本アワードに応募されるケースが多かったと感じています。その視点に立てば、一般消費者向け製品のマニュアルは「成熟期」を迎え、従来は使用説明の重要性があまり認知されてこなかった製品のマニュアルが数多く応募されるようになったとも言えます。すこし大げさですが、本年度のTCシンポジウム・テーマ「こんなところにも使えるんやって、TC(知らんけど)」に通じる現象

が生じているといえます。個人的には、「こんな製品・サービスのマニュアルにも応募していただいたのですね!!」という驚きや感動をもっとたくさん味わいたいをお願いするばかりです。

さて、今回の審査でマニュアルを拝見して、最も強く感じたことは「動画」についてです。いくつかのマニュアルで、操作説明のなかで二次元バーコードを掲載し、動画視聴へと誘導していました。一般的な手法になったことは間違いありません。しかしながら、細かい指摘で恐縮ですが、視聴を誘導するなかで、動画視聴のねらいや目的が、必ずしも明示されていないように感じました。つまり、紙媒体による操作説明の読解に加えて、動画の視聴を通じて「何を理解・把握してほしいのか」を明示すべきだと感じた次第です。同時に、動画を製作なさる段階において、ユーザーが動画を視聴することで「何かを理解・把握できる」について、どのように検証・確認しているのかも、気になりました。筆者が専攻する心理学的な立場からすれば、「動画はわかりやすい」、「動画を見ればわかってもらえる」といった認識は必ずしも保証されているわけではないと考えています。繰り返しになりますが、これからのマニュアルでは、二次元バーコードから動画の視聴を誘導することは、一般的であり、さらに普及していく手法です。だからこそ、動画の役割、動画視聴による理解促進について、マニュアル制作の過程において、丁寧な確認・検証作業が不可欠だと感じた次第です。

TOTO株式会社



受賞作

衛陶生産設計第二グループの
印刷物・動画制作メンバー

■TOTOについて

TOTOは、1917年設立で、福岡県北九州市に本社を置く、衛生陶器をはじめとする住宅設備機器などの製造販売を行っています。私たちは、衛生陶器に関わる印刷物や動画の制作を担当しています。

■印刷物・動画制作担当部署について

私たちのグループは、包装設計と印刷物・動画制作を行う専門部署となります。

弊社は2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指しており、省資源・省力化を実現する適正包装や紙資源の削減を目指して日々業務に取り組んでいます。

印刷物の専門チームとしては、2008年に結成して現在に至っています。担当の印刷物としては、商品に同梱する取扱説明書や施工説明書、注意書、商品に貼付するラベル類、動画やカタログまで、多くの印刷物を制作しています。また、国内だけでなく、海外向けも制作しており、印刷物・動画をグローバ

ルに展開しています。

私たちは、お客様が満足する情報を「見やすくわかりやすく」「正確に」提供でき、TOTO 商品をあんしん・安全にお届けできる印刷物を制作しています。その活動のレベルがどの位置にあるか、社外評価にて確認するため継続的にジャパンマニュアルアワードに応募しています。

・2014年

ピュアレストQR施工説明書 優良賞

・2015年

ネオレスト施工説明書 優良賞／安全賞

・2016年

ベッセル式洗面器施工説明書 優良賞

・2019年

ネオレストNX施工説明書 奨励賞

・2022年

フラッシュタンク式便器施工説明書

奨励賞

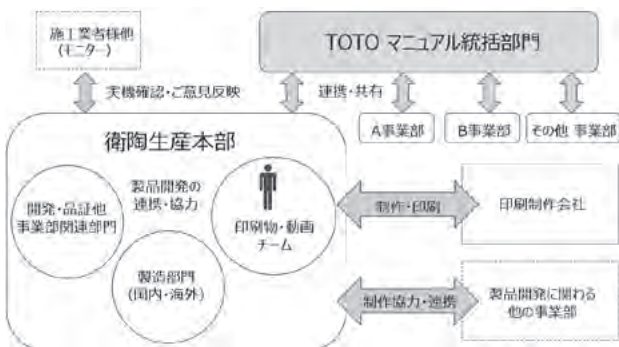
・2023年

ネオレストAS/RS 施工説明書 優秀賞
マニュアルオブザイヤー 2023

■ マニュアルに関わる部門

商品の印刷物を制作していくには自部門だけでなく、さまざまな部門と連携して制作しています。関連する部門とのコミュニケーションをしっかりと図りながら進めることで効率よく業務を推進しています。

また、各事業部おのおので印刷物を制作するのではなく、TOTOとしての統一した考え方が必要のため、マニュアルを統括する部門を設け、テクニカルコミュニケーションツールの共通化、ルール策定などを通じて、お客様満足に繋がる活動をしています。



■ 商品紹介

今回、ネオレストAS/RSの施工説明書を制作しました。



ネオレストAS/RSは水を溜めるタンクが便器内に収まったスッキリとしたシルエットが特長のネオレストシリーズの一つで、2022年8月発売の新商品です。

■ 改善内容

今回のモデルチェンジでは、停電時に使用する部品の取り付けを施工現場で行っていただく必要があります。

商品の見た目はモデルチェンジ前商品と大きな変化が無いので、施工手順も変化が無いと思われる施工されてしまうと、停電時にお客様が便器洗浄できなくなってしまいます。正しく施工方法を伝えることが課題のため対策を行っていきました。

現場での施工の課題を解決するためには施工の現場に立ち会い現状を把握することが大切です。今回の商品に限らず弊社では新商品の印刷物を制作する時には、施工技術者立ち会いのもと、施工確認会を行っています。そこで現状把握を行い、施工説明書の詳細設計を行います。

・赤背景で気づかせる手法

施工に慣れた方には、仕様変更しても正しく施工ができるように、施工方法や商品仕様が変わった箇所を赤背景で目立つようにして、何か変更されたのかもしれない、と気づいていただくよう配慮しています。初めて施工する方には、イラストメインで細かい作業は吹き出しや連続図を用いて分かりやすくしました。

また、モデルチェンジ前商品から変更になった手順を、このように赤背景にして、気づきやすくしました。

・注意書を捨てられずに必ずみてもらう

今回の新商品では変化点に気づいてもらうため

注意書の商品同梱は必須だと考えていました。注意書の役目を果たすために必要なことは、一度でも施工業者様の目に入ること、不要なものだとして施工前に破棄されないこと、を条件としました。

冊子になっている施工説明書は施工完了まで破棄されないのではないかと考え、施工説明書と注意書を統合することにしました。

■ 現物での施工確認

施工説明書のサンプルを作成し、施工説明書裏表紙に記載した注意書を上に向けて商品の一番上に同梱し、開梱時に最初に目に入るようにして、実際の施工現場に立ち会い施工確認を行いました。

施工していただく方を、ベテランの方と施工1年目の方に来ていただき、いくつかの施工現場に立ち会いました。

ベテランの方も施工1年目の方も、開梱時に注意書に気づいてもらうことができました。

また、施工後に施工説明書の今回の狙いをお伝えし、改善点などのアドバイスを頂き、記載内容のブラッシュアップを行いました。

その後も社内関連部門のメンバーと施工確認会を行い、狙いが正しく機能しているか確認しました。



■ 施工動画で手順説明

便器施工は実写動画で制作すると、手元の作業が施工業者様で隠れてしまい見えなくなるため、2017年から実写動画ではなくCG動画の制作を始めています。

新商品などのボリュームが大きい動画は社外制作会社で制作しており、短い動画は社内で作成しています。

効率よく動画制作を行うには、制作前に商品仕様を把握して絵コンテに落とし込み、社内関連部門や制作会社との認識合わせが重要です。認識がずれていると、修正が多くなりスケジュールどおりの制作ができなくなります。また、動画の試作品を確認する際には、マニュアル統括部門や社内関連部門にも協力を呼びかけ、手順や注意すべきポイントが伝わっているかなど、意見を集約し、動画の内容に反映しています。

CG動画の見せ方は色合いや質感を実物に近くなるように表現しています。

色合いや質感を実物に近づけることで、使用する部品や工具を正しく認識していただけるよう配慮しています。



社外の方からは、施工手順が分からないときに施工動画で手順が理解できたという声を頂いており、動画の効果を実感しています。

■ 施工説明書とWeb情報との連動

施工説明書からWeb情報に移動できるようにすることで、新商品情報を入手しやすくする取り組みをしました。

施工現場でお困りごとが発生した時に、解決方法

を探す手段は、弊社のお問合せ窓口にお問合せいただくか、Web上で商品の品番を入力して解決方法を検索する2つのパターンがあります。どちらの方法も欲しい情報にたどり着くのに時間がかかっていることが分かりましたので、施工説明書から新商品情報を入手できるように、専用サイトを作成しました。

この専用サイトへのアクセス方法を2種類設けています。

1つ目は、Web上で施工説明書を見ている時に、詳細が知りたい箇所をクリックすると、専用サイトに移動できる。

2つ目は、施工説明書に専用サイトの二次元コードを記載し、スマートフォンなどで読み込むと、専用サイトに移動できる。

施工現場でお困りごとが発生した時でも、新商品に関する情報にアクセスしやすくしました。



二次元コードを読み込むと



■ 今後の取り組み

「施工品質の向上」と「お客様の使いやすさ」を実現させるため、時代の進化（高齢化社会や外国人労働者の増加など）に伴った印刷物や動画を提供していく必要があります。昨今は、全体的に施工技術者が減少しており、また、55歳以上の施工技術者が3割以上を占め全産業と比較しても比率が高く、高齢化が進んでいると言われています。また、外国人施工技術者も増加しているため、施工手順を見やすく理解しやすいように、文字を少なくして図解を活用していく必要があると考えています。

また、動画は音声がなくても理解できるようにすることで、経験が浅い施工技術者や外国人施工技術者に使いやすい説明ツールにしていきたいと考えています。

施工説明書の制作にあたっては、現場の実態を知ることが大切です。現場でどのように行われているかを3現主義にて確認し、現在の取り組みの方向性は正しいのか、今後どのような取り組みを行っていく必要があるのか、現状確認→検討→対応を繰り返し、施工技術者視点に立った施工説明書制作を行っていきます。

■ TOTOの施工動画一覧

下記の二次元コードからご確認できます。



一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会(略称JTCA、英文名称Japan Technical Communicators Association)は、製品・サポート情報の発信に携わる専門家の団体です。

1992年1月に任意団体として設立され、2009年1月に一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会として発足しました。

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会とは

本財団は、製品・サポート情報の品質改善により国民生活の向上を目指すとともに、各種製品・サービスの利用に際しての安全性向上と誤使用防止、および製品・サービス供給者におけるリスク管理への寄与につとめ、技術の活用およびそれから得られる体験価値における社会的・地域的格差の解消を図るため、以下の公益目的を達成するための活動を行う。これらの公益活動を通じて、供給者および受益者における情報リテラシーの向上に寄与すると共に、製品・サポート情報を効果的かつ効率的に提供する技術を高め、その技術に携わる多様な人々の相互交流と研鑽を積む事により、社会貢献を果たす。

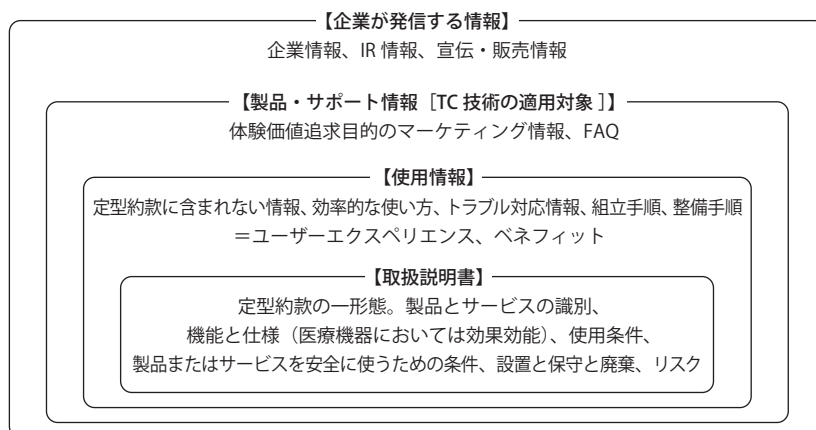
出典:定款第6条から一部抜粋、2019年

テクニカルコミュニケーション(TC)技術とは

法令要求に基づき、企業がつたえなければならない製品・サポート情報を、技術的に正確に、かつ理解されるように表現してこれを必要とする者につたえる事を専門領域とし、製品の一部としての使用情報の作成実務を担うとともに、製品とサービスの活用を通じた体験価値の高度化と使用者保護の両立に寄与する事を社会的使命とする技術国際規格に即した工程モデルを推進する技術である。

出典:『製品・サポート情報のつたえかたコンプライアンスと校閲編第1版』TC協会編著

製品・サポート情報とは:



出典:製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版

テクニカルコミュニケーターとは

- 製品・サポート情報の発信に携わる専門家
- 製品・サポート情報を企画し、制作を統括するプロジェクトマネージャー
- ユーザビリティ設計および開発の担当者
- 理解しやすい説明文を書き起こすテクニカルライター
- イラストや概念図などを作成するテクニカルイラストレーター
- オーサリングシステムを用いて制作実務を担う Technical author
- 情報の適切な配置を決め、使いやすさを向上するデザイナー
- 海外向けの使用情報に携わる翻訳者およびローカライゼーション担当者
- 認知科学、心理学、デザインなどの研究者、教育者

出典:一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 Webサイト、整合のため一部改変
整合根拠: ISO/IEEE 82079-1:2019、
『製品・サポート情報のつたえかた コンプライアンスと校閲編 第1版』TC協会編著

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会の活動

●シンポジウム

- ・夏季は「コミュニケーションデザインシンポジウム2024」としてオンラインライブ配信にて開催
- ・秋季は「テクニカルコミュニケーションシンポジウム2024」として対面にて開催

●ジャパンマニュアルアワード

- ・年度最優秀マニュアル(マニュアル オブザイヤー)の選出と表彰
- ・国際規格(IEC82079-1)に基づく評価

●学術研究産学協同

- ・TC技術発展に向けて調査研究活動を大学などの公的研究機関と連携
- ・テクニカルコミュニケーション・リデザイン学術研究会での研究成果の共有
- ・TC国際円卓会議の推進
- ・IEEEとの交流

●標準規格策定

- ・標準制作工程の検討
- ・使用情報に関する国際規格の策定／改定(IEC82079シリーズ)
- ・カタカナ表記ガイドラインの策定／改定
- ・TC用語の国際規格の策定
- ・使用情報のJIS規格策定
- ・欧州のTC専門組織(ドイツtekomp)と連携

●人材育成事業

- ・セミナーによる人材育成活動
- ・最新の制作ツールなど、新しい技術動向の解説
- ・大学向けTC専門課程認定制度導入校の拡大

●TC技術検定事業

- ・全国共通の基準でスキルの到達度を判定
3級:テクニカルライティング試験(TW)
2級:使用情報制作実務試験(MP)
2級:使用情報制作ディレクション試験(DR)
- ・2級TCスペシャリスト認定制度

●国際TC検定試験事業

- ・ドイツTC協会(tekomp)認定のTCTrainNetを活用した英語によるTC技術の学習、試験による国際的なTC資格取得の推進

●出版事業

- ・TC技術解説書(兼TC技術検定ガイドブック)の発行
日本語スタイルガイド(第3版)
トリセツのつくりかた:制作実務編
製品・サポート情報のつたえかた
コンプライアンスと校閲編(第1版)
トリセツのつくりかた:品質追求編(新編集版)
- ・使用説明関連の中国国家標準解説書
- ・機関紙Frontierの発行

●受託事業

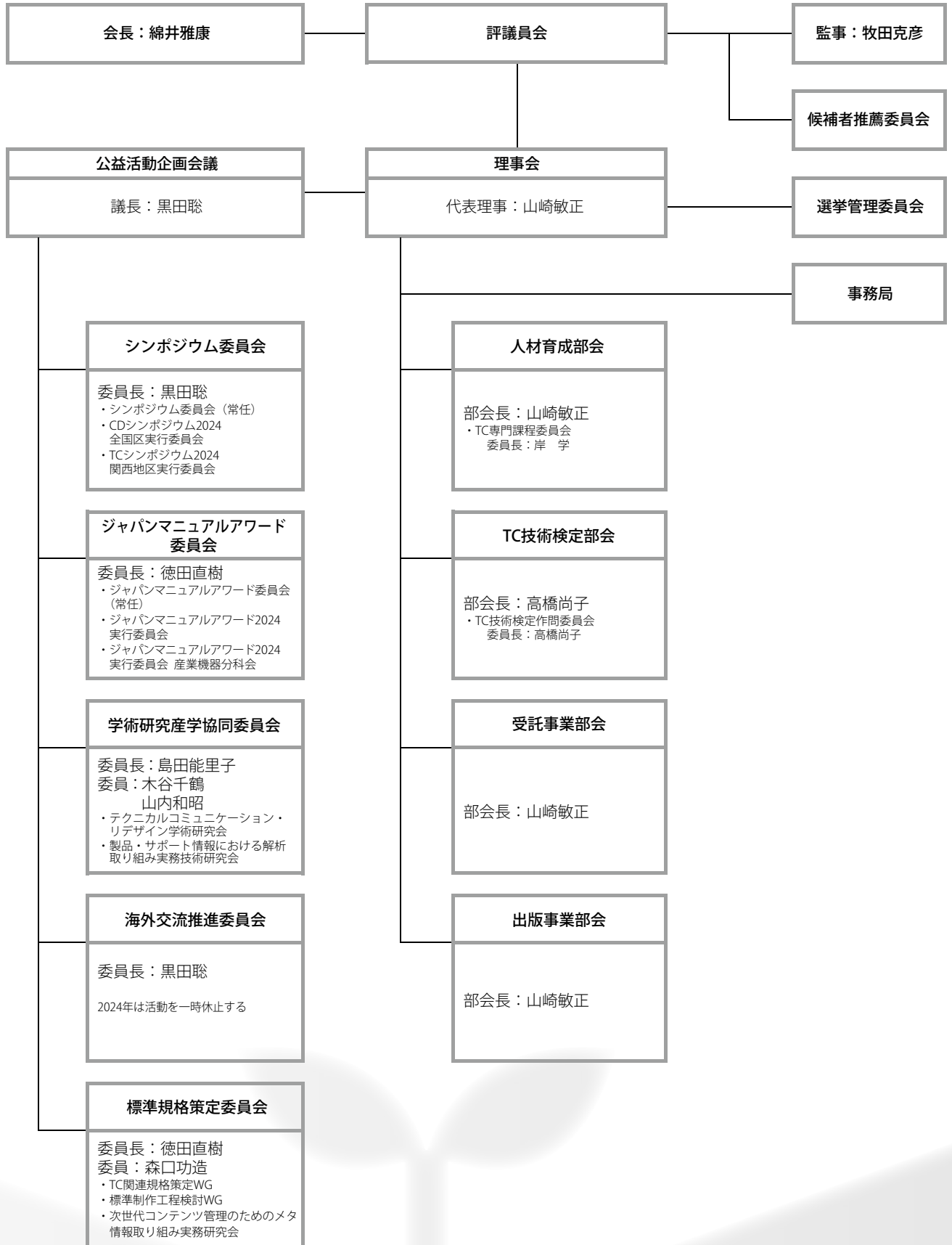
- ・マニュアル等の製品・サポート情報の評価サービス(国内向け、海外市場向け)

詳細はTC協会webサイトで紹介しています。
<https://www.jtca.org/index.html>



一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

組織体制：2024年1月10日現在



Frontier (フロンティア) 第18号 2024年3月発行

発行：一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-34-2 第一後藤ビル 101号室

Tel.03-3368-4607 Fax.03-3368-5087

<https://www.jtca.org>

発行人：綿井 雅康

編集責任者：山崎 敏正

企画／編集：TC協会出版部会

表紙・本文デザイン：菊池美範（株式会社エイアール）／吉光さおり（Kamigraph Design）

制作：株式会社パセージ

©Japan Technical Communicators Association 2023

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 入会特典

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会では、魅力ある多数の特典を用意して、皆様のご入会をお待ちしています。

会員数:2023年12月1日現在
法人会員:88社
準法人会員:2社
個人会員:125名

■製品・サポート情報の収集および活用

1) TC技術検定試験の活用

- ・制作関係職種の人材育成の指針と到達度評価に活用できます。
- ・人事制度上の各種施策への利用ができます。

2) マニュアル評価技術の活用

- ・マニュアル評価基準で自社マニュアルの評価と品質向上につながられます。
- ・ジャパンマニュアルアワードの評価結果を受け自社のレベルが把握でき、改善目標が明確になります。授賞した作品は、社内への有効なPRにもなります。
- ・マニュアル評価審査員講習会に参加でき、評価方法/技術を習得できます。

3) シンポジウムの活用

製品・サポート情報の今後を見すえ、プログラム内容は毎年更新しています。

- ・パネルディスカッション、特別セッション、事例発表の参加を通じ、TCに関する新しい研究成果や技術、仕組みなどが習得できます。
- ・他社、制作会社など業界動向(表現技術、ツール、UX、DX、標準化、翻訳等)を幅広く把握できます。

4) 調査研究成果の活用

国内にとどまらず、海外の関係団体との協業による活動を強化しています。

- ・使用情報の制作技術・技法、人材育成などの調査、分析の成果を制作環境に反映できます。
- ・単独では難しい課題や案件が、複数企業が共同して取り組み、成果につなげることができます。
- ・共同調査研究活動で業界他社や関連官庁、公共機関等にもパイプをひろげることができます。

5) 会員との相互交流の場の活用

協会行事運営への参加(各種実行委員会、ワーキンググループ、実務技術研究会など)により、交流を通じ、人脈を拡大できるとともに、他社の使用情報制作の課題や組織体制などの情報収集ができ、自社のレベルを把握できます。

■会員料金と会員割引特典

【年会費】 法人会員:18万円(入会金不要) 準法人会員:9万円(入会金不要)
個人会員:1万円(入会金は1万円)

- ・TC技術検定試験の会員受験料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TC実務セミナーの会員受講料は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。
- ・TCシンポジウムの会員参加料金は、非会員価格と比較して30%~50%割安です。

■法人会員にはさらに大きな特典

- ・法人会員の場合は入会法人社員のすべての参加者・受験者に会員価格が適用(準法人会員は限定人数分のみで個人会員は本人1名のみ)
- ・TCシンポジウムにおける商品発表および商品展示、プログラムへの広告掲載料金が割安
- ・機関誌『Frontier』への広告掲載料金が割安
- ・マニュアル等の製品・サポート情報の個別評価価格が割安

JICA